

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 企画展

あかつきぶたい

ごうか

暁部隊 劫火へ向かへり

— 特攻少年兵たちのヒロシマー —

2024年3月1日(金) — 2025年2月28日(金)

僕
た
ち
は

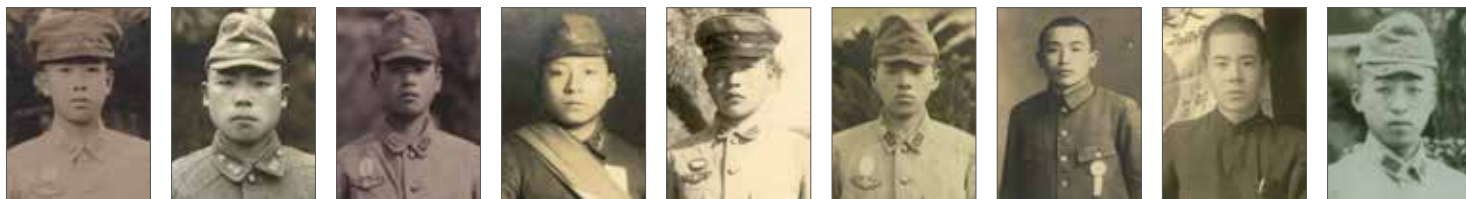
死
の
街
を
歩
い
た



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

入館
無料

暁部隊 劫火へ向カヘリ —特攻少年兵たちのヒロシマ—



太平洋戦争当初、破竹の勢いだった日本軍。しかし、1944 年にかけて戦局は厳しさを増し、本土決戦が叫ばれるようになりました。この状況下で人員をさらに補充するため、陸軍は「特別幹部候補生（特幹）」制度を創設します。飛び級で下士官になれることもあり、満 15 歳以上 20 歳未満の軍国少年たちが全国各地から志願しました。そして、彼らの派遣先のひとつが、船舶司令部（通称「暁部隊」）の船舶練習部でした。

船舶司令部は、本来、軍隊や物資等を船舶で輸送する陸軍の組織でしたが、船舶練習部は、当時開発されたばかりの特攻艇、通称㊦（マルレ）の訓練をする部署でした。㊦は、全長約 5.6m のベニヤ製の小型ボートで、船尾に爆雷を積み、敵艦に突っ込む特攻兵器です。

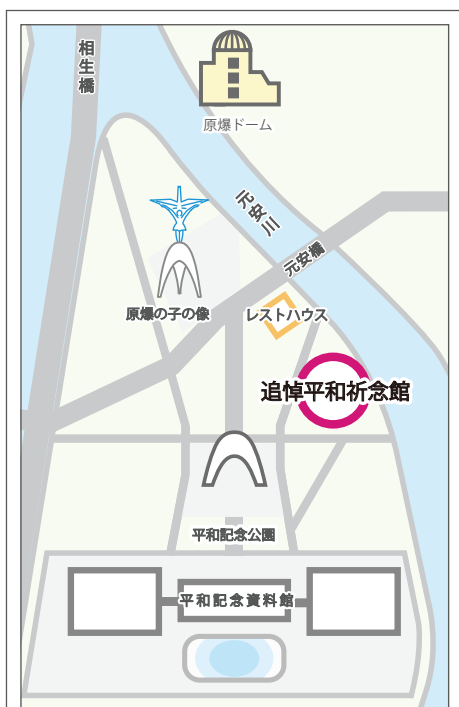


特別幹部候補生の募集ポスター
所蔵：東京都江戸東京博物館

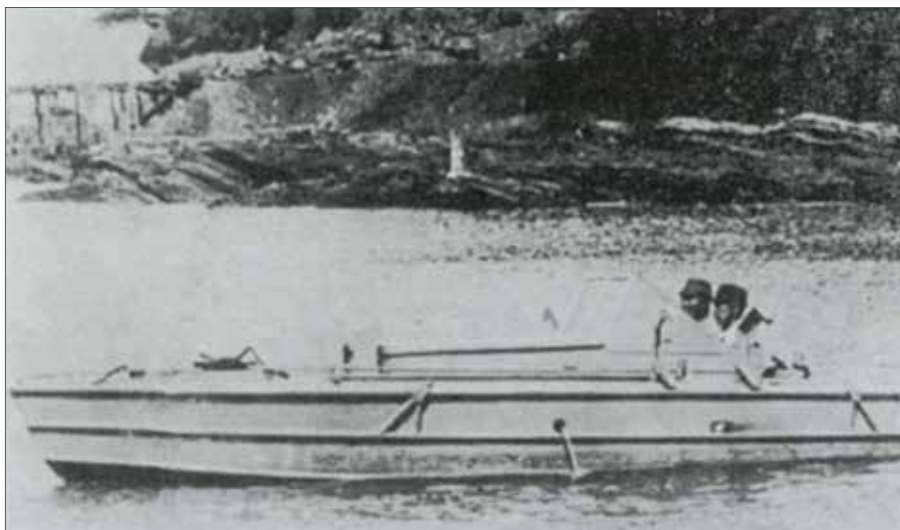
昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日も、来たるべき時に備え、少年兵たちは日々の訓練に励んでいました。しかし、彼らを待ち受けていたのは特攻ではなく、アメリカ軍による原爆投下でした。

爆心から約 4.8 km 離れていたため、広島の中で唯一軍隊としての機能を保った暁部隊。その司令官、佐伯文郎^{さえき ぶんろう}は、広島が壊滅したことを知るや、原爆炸裂後 1 時間も経たずして、「本務を捨てても広島市の救護に立て」と全隊に出動命令を出しました。少年兵たちも㊦等に乗し、広島市内へ急行。道路上のガレキの撤去や被災者の看護、遺体の処理に従事しました。

特攻と向きあっていた少年兵たちが、死の街広島で何を見て、何を感じたのか。彼らの心情に迫ります。



広島駅（南口）から約 20 分
市内電車：宮島口、江波行き「原爆ドーム前」下車
紙屋町経由広島港行き「本通」下車
バス：広島バス吉島方面行き「本通り」下車
※ 駐車場はありません



訓練中の㊦

『㊦の戦史—陸軍水上特攻の記録—』より

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

TEL：082-543-6271 FAX：082-543-6273

ホームページ URL：<https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

〒730-0811 広島市中区中島町 1-6

開館時間：3 月～ 7 月：8:30～18:00

8 月：8:30～19:00 (8/5, 8/6：8:30～20:00)

9 月～11 月：8:30～18:00、12 月～2 月：8:30～17:00

休館日：12 月 30 日、31 日



あの時を忘れない
Never forget

